

豚熱 100 例目調査報告・疫学検討結果

群馬県で確認された国内 100 例目の豚熱発生事例について、農場へのウイルス侵入要因等を検討した。

1. 発生の概要

【100 例目】

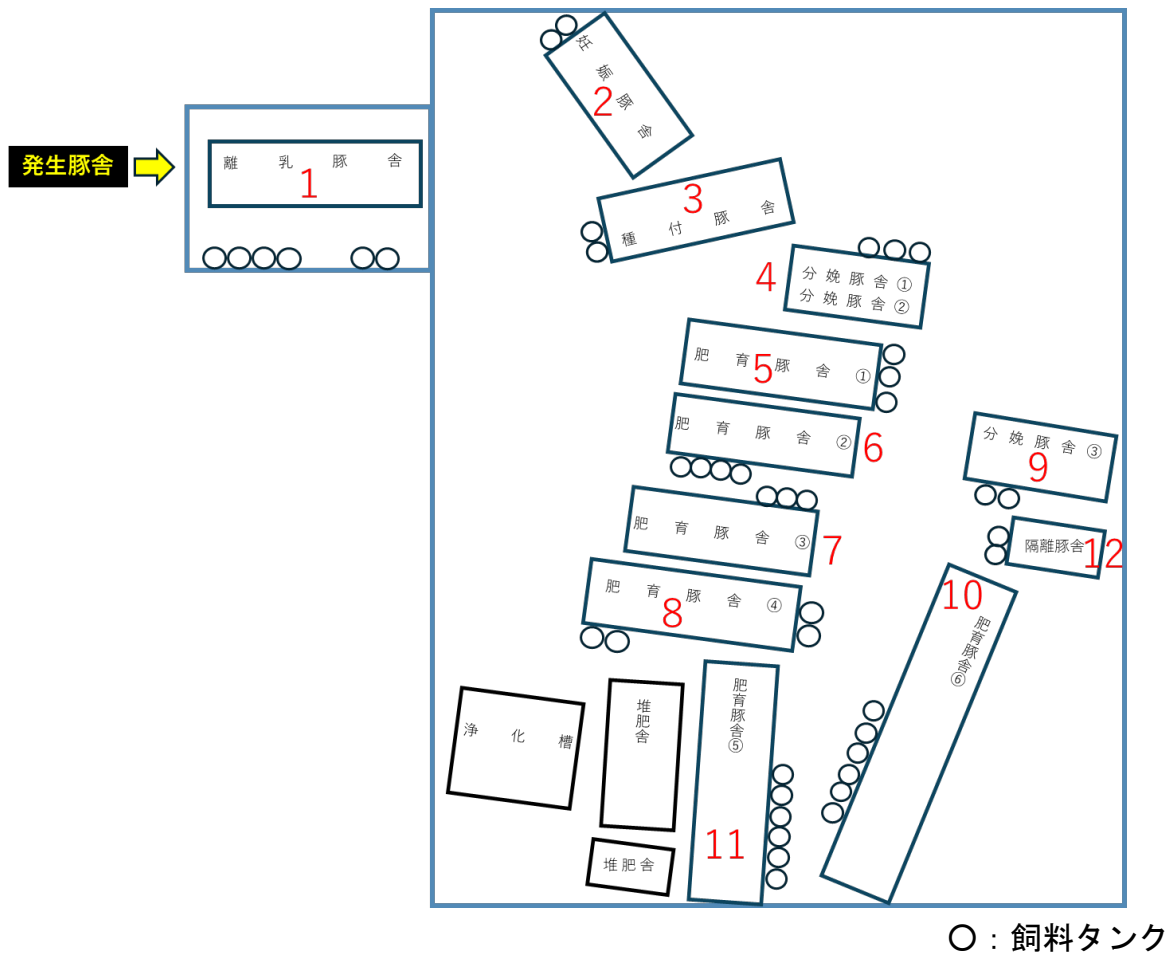
(1) 農場概要

所在地：群馬県桐生市

飼養状況：一貫農場（飼養頭数：約 5,900 頭）

発生日：令和 7 年 10 月 2 日

(2) 発生農場見取図



(3) 経緯

令和元年

10月15日 群馬県を豚熱ワクチン接種推奨地域に設定。

令和3年

8月7日 前経営体にて豚熱発生（国内71例目）。

令和4年

4月 現経営体にて経営再開。

令和5年

5月 14日齢と30日齢の計2回の豚熱ワクチン接種を開始。

令和7年

9月28日 離乳豚舎2号豚室で発育不良による死亡が確認され、普段と異なる死に方であった。

9月29日 3号豚室で2頭が発育不良、消瘦、下痢の症状を呈していたとのこと。
2頭のうち1頭は元気消失しているが発熱はなく、もう1頭は呼吸器症状とそれに付随するチアノーゼによりPRRSを疑ったとのこと。死亡の増加は見られなかった。

10月1日 管理獣医師が9月29日に症状を呈した2頭以外の1頭（3号豚室）を解剖したところ、内臓に出血傾向が認められたため、豚熱を疑い、通報。

10月2日 農研機構動物衛生研究部門での検査の結果、豚熱の患畜と判定。

10月3日 現地調査時、発生があった豚室（2号、3号）の殺処分は終了していたが、隣接する部屋の30日齢前後の離乳豚では体表の発赤が認められ、発熱が疑われた。

(4) 死亡頭数の推移

死亡頭数推移(離乳豚舎)

豚室番号		1号	2号	3号	4号	5号	6号	7号	8号
死亡推移	9月4日					1			
	9月5日	1			1				
	9月6日					1			
	9月7日								
	9月8日								
	9月9日						1	1	
	9月10日								
	9月11日								
	9月12日				1				
	9月13日						1		
	9月14日								
	9月15日	1							
	9月16日								
	9月17日								
	9月18日								
	9月19日				1				1
	9月20日								
	9月21日		1				1	1	
	9月22日								
	9月23日	1		1					
	9月24日		1						1
	9月25日	1					1		
	9月26日		1					1	
	9月27日				1				
	9月28日		1						
	9月29日						1		
	9月30日				1				
	10月1日			2					
	合計	5	6	6	2	3	5	6	3
処分時の状況									
出生日		7/19、 8/8-8/16	7/19-8/6 8/14-8/23	7/19-8/20 8/22-9/1	8/22-9/6		7/24~8/2	7/24~8/2	7/19、 8/1~8/9
離乳舎への導入日		9月4日	9月11日	9月18日	9月25日		8月14、21日	8月21日	8月28日
離乳舎への導入時頭数		250	197	224	218		不明	209	232
ワクチン接種日(1回目)		8/21、8/28	8/28、9/4	9/4、9/11	9/11、9/18		8/7、8/14	8/7、8/14	8/14、8/21
ワクチン接種日(2回目)		9/16	9/23	未接種	未接種		9/2	9/2	9/9

(5) 検査結果

【100例目】検査結果

病性鑑定（令和7年10月1日採材）

病性鑑定（令和7年10月1日採材）			ワクチン未接種		ワクチン2回目未接種		
同居豚		PCR検査 (陽性数/検査数)	陽性率	ELISA検査※ (陽性数/検査数)	陽性率	WBC10,000個/μl未満 (陽性数/検査数)	割合
①-2	離乳舎1-2 (39日～48日、1回目接種後27～34日、2回目接種後8日)	2 / 6	33.3%	5 / 6	83.3%	0 / 6	0.0%
①-3	離乳舎1-3 (30日～40日、1回目接種後20～27日、2回目未接種)	1 / 6	16.7%	5 / 5	100.0%	1 / 6	16.7%

殺処分前検査（令和7年10月2日採材）

同居豚	PCR検査 (陽性数/検査数)	陽性率	ELISA検査※ (陽性数/検査数)	陽性率	WBC10,000個/μl未満 (陽性数/検査数)	割合
①-1 離乳舎1-1 (47日～55日齢、1回目接種後35日～42日、2回目接種後16日)	0 / 20	0.0%	5 / 20	25.0%	2 / 20	10.0%
①-2 離乳舎1-2 (40日～49日、1回目接種後28～35日、2回目接種後9日)	13 / 30	43.3%	24 / 30	80.0%	1 / 28	3.6%
①-3 離乳舎1-3 (31日～41日、1回目接種後21～28日、2回目未接種)	16 / 30	53.3%	22 / 30	73.3%	0 / 29	0.0%
①-4 離乳舎1-4 (26～34日齢、1回目接種後14～21日、2回目未接種)	4 / 20	20.0%	13 / 20	65.0%	0 / 20	0.0%
①-5 離乳舎1-5	空舎					
①-6 離乳舎1-6 (61～70日齢、1回目接種後49～56日、2回目接種後30日)	3 / 20	15.0%	12 / 20	60.0%	0 / 20	0.0%
①-7 離乳舎1-7 (61～70日齢、1回目接種後49～56日、2回目接種後30日)	1 / 20	5.0%	10 / 20	50.0%	2 / 20	10.0%
①-8 離乳舎1-8 (54～62日齢、1回目接種後42～49日、2回目接種後23日)	0 / 20	0.0%	9 / 20	45.0%	1 / 20	5.0%
② 妊娠豚舎 (255～1456日齢)	0 / 10	0.0%	10 / 10	100.0%	0 / 10	0.0%
③ 種付舎 (255～1395日齢)	0 / 10	0.0%	10 / 10	100.0%	0 / 10	0.0%
④ 分娩舎 (14～15日齢、未接種)	0 / 4	0.0%	4 / 4	100.0%	4 / 4	100.0%
④ 分娩舎 (22～27日齢、1回目接種後5日、2回目未接種)	0 / 6	0.0%	6 / 6	100.0%	0 / 6	0.0%
⑤ 肥育舎 (日齢、接種日不明)	0 / 10	0.0%	5 / 10	50.0%	0 / 10	0.0%
⑥ 肥育舎 (140～152日齢、1回目接種後126～154日齢、2回目接種後111～118日)	0 / 10	0.0%	8 / 10	80.0%	1 / 10	10.0%
⑦ 肥育舎 (128日齢、1回目接種後112日、2回目接種後97日)	0 / 10	0.0%	6 / 10	60.0%	0 / 10	0.0%
⑧ 肥育舎 (110～122日、1回目接種後97～108日、2回目接種後76～90日)	0 / 10	0.0%	7 / 10	70.0%	0 / 10	0.0%
⑨ 分娩舎 (3～10日齢、未接種)	0 / 10	0.0%	10 / 10	100.0%	5 / 10	50.0%
⑩ 肥育舎 (74～104日齢、1回目接種後60～90日、2回目接種後41～69日)	0 / 10	0.0%	8 / 10	80.0%	0 / 10	0.0%
⑪ 肥育舎 (158～177日齢、1回目接種後144～163日、2回目接種後125～146日)	0 / 10	0.0%	8 / 10	80.0%	0 / 10	0.0%
⑫ 隔離舎 (173～195日齢、1回目接種後日数不明、2回目接種後148～169日)	0 / 10	0.0%	8 / 10	80.0%	0 / 10	0.0%

※：ELISA-/中和+=+、ELISA+/中和-=とカウント。中和試験は<2を-と判定。

※2：当該農場では飼養豚に対するワクチンを14日齢に0.5ml、30日齢に1mlの2回接種していた。

環境材料	5 / 50	10.0%	①-2、①-3で陽性
------	--------	-------	------------

環境材料で陽性が確認された豚舎での採材材料（下線は陽性となった材料）

①-2	離乳舎①-2	飼槽、水飲み、床、換気扇
①-3	離乳舎①-3	飼槽、水飲み、床、換気扇

ワクチン接種・未接種ごとの検査結果（病性鑑定を含む）

	PCR検査 (陽性数/検査数)	陽性率	ELISA検査 (陽性数/検査数)	陽性率	WBC10,000個/μl未満 (陽性数/検査数)	割合
2回接種	19 / 206	9.2%	135 / 206	65.5%	7 / 204	3.4%
1回接種	21 / 62	33.9%	46 / 61	75.4%	1 / 61	1.6%
未接種	0 / 14	0.0%	14 / 14	100.0%	9 / 14	64.3%

2. ウイルスの侵入要因

本発生事例のウイルスについて、これまでの発生農場と感染野生イノシシに由来するウイルスの全ゲノム情報を比較したところ、当該農場からおおよそ6km離れた地点で令和4年11月に確認された野生イノシシから検出されていたものが最も近縁であったことから、農場周辺の野生イノシシ由来のウイルスが何らかの要因で農場内に侵入したことによるものと考えられた。一方、当該農場では令和3年8月にも感染が確認されている（国内71例目、当時と経営体は変わっている）が、この際に当該農場から得られたウイルスと今回のウイルスの遺伝子は大きく異なっており、今回の発生は、前回の発生時のウイルスが農場内に残っていたことによるものではないと考えられた。

また、この事例については、離乳豚舎のみで感染が認められたが、母豚の抗体価の検査結果により、母豚がウイルスに暴露された可能性が示唆されることから、分娩舎にウイルスが最初に侵入し、感染した哺乳豚が離乳豚舎に移動後発生が顕在化した可能性もある。

ただし、当該農場ではワクチン接種が行われており、ほとんどの飼養豚はウイルスに暴露されても感染しなかったと考えられることから、飼養個体の検査結果から感染時期を特定して推定することは困難であることに注意が必要である。